

やわらかい言葉

—— 出会いから ——

木村 理 佳

宿縁を慶ぶ

みなさん、こんにちは。先ほどご紹介いただきました、東本願寺青少年センターの木村理佳といいます。今日はよろしくお願いいたします。

私は今、青少年センターという部署におります。先ほど、みなさんと「人身受け難し」 という三帰依文を唱和しましたが、子どもたちがお参りに来た時には、『三つのちかい』という言葉を唱和してから仏さまのお話を聞きます。ぜひ、みなさんも一緒に、私の後に続いて『ちかい』を唱和いただきたいと思います。それでは、手を合わせてください。

私たちは 仏の子どもになります

私たちは 正しい教えを聞きます

私たちは みんな仲よくいたします

ありがとうございます。合掌をといってください。

今日は、京都光華女子大学の宗教講座にお招きをいただきましてありがとうございます。私は、こんなに大勢の方の前でお話するのは初めてですので大変緊張をしています。私は三、四日前から風邪をひいてしましまして、風邪で身体はしんどいのですが、風邪のおかげで緊張をふきとばしてくれました。

私は今日までいろんな方々にお育ていただきました。つたないですけれども、私のところまで親鸞聖人の教えを伝えてきてくださったことをお話をさせていただこうと思います。

この四月、たまたまこの大学に来た時に、一郷学長先生と小澤先生から「木村さん、ちよっと話をしてくれないか」と言われました。本当はとも嫌だったんです。逃げたかったんですけど、二つのことを思い、引き受ける覚悟をしました。一つ目は、「ご縁」を自

分から断ち切ってはいけない、私の思い、(嫌)、だけではすまされないということです。親鸞聖人のお言葉の中に、「遠く宿縁を慶べ」という言葉があります。宿^{やど}という字は、「前からの」という意味です。例えば宿題でしたら「前からの課題」ですが、私の思い、(嫌)、だけではすまされない、この場をいただくずっと前からこのご縁は決まっていた、ということを知らせていただいた言葉であります。今日はみなさん、お念珠をお持ちでしょうか。お持ちだったら出していただきたいんですが、ある先生にこういうことを教えていただきました。数珠は一つずつバラバラですけれども、中心の紐のおかげでキレイに整列して輪の形を保っています。その玉の一つを自分自身と見立てると、残りの玉は、今まで出会った人、少し関わりのある人、会ったことはないけどご縁のある人、そして、これから出会う人。そういう人々と自分が共に一つのご縁で繋がっているということです。ですから、今まで会った一郷先生、長者先生、小澤先生、真東先生、阿部事務局長、この方たちと繋がっている教職員の方たちや学生さんたちと知り合うきっかけを断ち切ってはいけないと思い、今日は来させていただきました。ご縁の糸を切ることはとても簡単ですけれども、切ったご縁、数珠を今一度、繋ぎなおすのは難しいことです。数珠も、人の縁も、大切にしていけないと思います。

そして、二つ目の覚悟です。「やけくそなんですけれども、格好悪い自分でもいいやん」(笑)、と思わせてもらいました。やっぱり、「今日のお話は良かったね」と言われたい、それが本心なんです。能力も、努力も、話術もないのに、そんなことを思う自分がいるんです。親鸞聖人のお弟子さんの唯円が書いた『歎異抄』の中に「念仏には無義をもつて義とす」という親鸞聖人の言葉があります。この「義」には、計らいという意味があります。自分の都合で計算する。計算してうろろしている私がいるんです。ですので今日は、良いように見られたいという自分、格好の悪い私、を思う存分みなさんに見ていただくという覚悟して臨ませていただきました。

京都光華女子大学に久し振りに来て、十八、十九歳のみなさんにお会いして、やっぱり若くて綺麗だなと思いました。私も三十年前はみなさんと同じぐらいの年でした。みなさんのお母さんと同じぐらいの年かなと思っています。この京都光華女子大学は、東本願寺第二十四代、大谷光暢門首(当時は門主)のお裏方である大谷智子さん(裏方というのは門首の奥さま、夫人を指します)が、昭和十四年に仏教精神の基づく女子教育の場の実現を願われて、昭和十五年に光華高等女学校を開学されました。高等女学校は現在の中学校に当たるかと思えます。今では、小学校、中学校は義務教育になり、高校や大学への進学

率も高く、高校の進学率は96%になっていますが、昭和十五年の進学率は、男性が20.4%、女性が15.5%で、平均18%しかありませんでした。そんな中、高等女学校を設立されたということは、女子教育を大変重視されていたんじゃないかなと思います。なぜ、女子教育だったかということですが、明治時代から第二次世界大戦までは、男女共学はあまり多くありませんでした。宗派の関係学校として東山の大谷高校がすでに男子校として存在していましたので、女子校を設立するに至ったのかなと思います。この時代に「女子に教育の場を」というのは稀なことだと思っておりますし、画期的なことだったと思います。

さて、みなさんは、入学式の後、今年の四月八日に東本願寺に参拝されたと思いますが、私はその東本願寺で職員として働いております。お寺に勤めていると聞いても、神社の巫女さんなら想像できるかと思いますが、どんな仕事をしているのか想像ができないと思います。東本願寺は、正式な名前を「真宗本願」と言いまして、宗派名は真宗大谷派です。この真宗大谷派がどんな組織かと言いますと、日本の国に日本国憲法が定められておりますように、真宗大谷派にも宗憲という法則がございます。その、宗憲第三条に「本派は、真宗本廟を中心として、僧侶、門徒、寺院、教会その他の所属団体を統合する宗門である」と規定されております。それでは、ちょっと考えていただきたいんですが、私たち

が所属する東本願寺、真宗大谷派のお坊さんは何人ぐらいたと思いますか。前の方はいつも当てられてばかりなので、一番後ろのメガネのお姉さん、何人ぐらいたと思いますか。五〇〇人。はい、ありがとうございます。五〇〇人よりも多いので、その前のお姉さん。一〇〇〇人。実はそれよりも多いです。その前のお姉さん。五〇〇〇人。はい、正解は三万二六二八人です。これは、全国北海道から沖縄、そして海外にいらっしゃるお坊さんの数です。それでは第二問目です。真宗大谷派のお寺は全国に何カ寺あると思いますか。五〇〇。もうちょっと多いので、その前のお姉さん。一〇〇〇。はい、前の席のお姉さん。二〇〇〇。はい、じゃあ正解いきます。全国には八七二二のお寺があります。では、最後の質問です。先ほど、私たちの宗門は、門徒、寺院、そして関係団体で組織をすると言いましたが、みなさんの学校も関係団体の一つであります。それでは、真宗大谷派の関係学校はいくつでしょうか。小学校から大学までいくつあると思いますか。一〇〇。あ、今度はちょっと多すぎました。九。もうちょっと多いんですね。二〇校。はい、おしかったです。小学校から大学まで三八校あります。

私たちの宗派は何を目的にしているかと言いますと、「親鸞聖人の立教開宗の精神に則り、教法を宣布し、儀式を執行し、その他教化に必要な事業を行い、もって同朋社会を实

現することを目的とする」。難しいことが書いてありますけれども、私たち職員は、お坊さんや門徒さん、関係する団体と共に、親鸞聖人の教えを、いかに伝えていくか、お念仏をする仲間を一人でも多くするためにはどうすればいいか、を日々考えております。

先ほどの三八校の中に、大学は、大谷大学、京都光華女子大学、大阪大谷大学…があります。短大は帯広大谷短大、飯田女子短大、九州大谷短大…があります。高校は、大谷高校、京都光華高校、北海道の函館大谷高校、札幌大谷高校…。中学校は、大谷中学、京都光華中学、大阪大谷中学、大成中学、札幌大谷中学がありまして、小学校は光華小学校だけです。全国で東本願寺関係学校のたった一つの小学校ということで、私はこの光華学園をすごい学校だなと尊敬しております。

東本願寺には、事務を掌る事務所が十五部署があり、それぞれの業務を行っています。例えば、出版部でしたら東本願寺からの出版物を出したり、私がいる青少年センターでは青少年教化のことを考えたりしています。みなさんの京都光華女子大学を管轄しているのは教育部というところです。先ほど、全国にお寺が八七二二あると言いましたが、そこを管轄しているのが教務所で、全国に三十あります。海外では、ロサンゼルス、ハワイ、ブラジル、に開教区がありまして、そこに住む方々の声を聞いて、その地方の特性に

合わせて、親鸞聖人の教えを伝えるにはどうしたらいいかを具体的に考える事業を行っております。

私の歩み

私は今、四十九歳ですが、二十二歳で大学を卒業しまして、二十七年前からこの東本願寺に勤めています。現在、青少年センターの部長の役職に就いておりますが、その経緯など少し私のお話を聞いていただきたいと思います。

私は、昭和四十三年五月に、姫路のお寺で、四つ年上の兄の次の子どもとして生まれました。小中高と地元の公立学校に進みまして、歴史がとても好きでしたので、高校後の進路は史学科に進みたいなと思っておりまして。京大、東大、早稲田、慶應、上智や、関西という関関同立には足元にも及ばない学力でしたが、その中で少しでも偏差値の高い学校に行きたいなと思っておりまして。良い学校に入ったら、良い会社に入れて、良い人生に恵まれるなと思っていました。それは、世間一般の価値観にまみれていた高校生だったと思います。『正信偈』に、「邪見憍慢悪衆生」という言葉があります。みなさんも『正信

偈』を勤められたことがあると思いますので聞いたことがあると思います。「邪見」は邪よこしまな考え、「橋慢」は、自らが思い上がって他を見下すことで満足する、人間はそんな生き物なんですよ、ということをお教えたいただいた言葉です。本当にあらゆるところにおいて、人と比較する自分がいることを教えられた言葉です。

そんな中、高校二年生ぐらいから、東本願寺で開催されていました、お寺の子ども（高校生）たちが、春休みや夏休みに、二泊三日で、いろんなことを話し合ったりする、寺院高校生奉仕団に参加させていただきました。お寺で育った子どもたちとはそれまで会ったことがありませんでしたが、寝食を共にする中で、大谷大学が東本願寺の宗門校で、多くのお寺の子どもたちが行っているということを知りました。中学校や高校の時は、お寺で生まれたことが嫌で仕方なかったんです。みなさんの中にもお寺の子どもさんがいらつしやるかもしれませんが、「線香の匂いがする」とか、お寺の子どもだから「尼子さん」とか、人が亡くなった時に葬儀にかけつけるのがお坊さんですので、「人が死んだらもうかるなあ」とか、いろんなことを言われて、とても嫌な思いをしていました。それと共に、お寺の子どもはこういう人でなければいけない、例えば、お寺の子どもは真面目である、お寺の子どもはおしとやかである…、と自分自身で勝手に決めつけてもいました。ですか

ら、同じ環境で育った人たちと出会うことができて、初めて、しんどさを共有することができたんです。そして、お寺の子どもたちがたくさん行っている大谷大学に進んでみようかなと、その時に初めて意識しました。そして、歴史もとても好きでしたので、歴史学科がある神戸女子大学と大谷大学の二つを受けました。親元を離れて下宿をしたいという思いもありましたので、大谷大学に進むことにしました。

思春期にはいろんな悩みがあると思いますが、みなさんはどうでしたか。私は高校の時に、「私って誰やろう」「私って何のために生まれてきたんだろう」とよく考えていました。大谷大学の入学式の時、門の横の掲示板に、「自己とは何ぞや　これ人生の根本的課題なり」という言葉が貼り出されていました。これは、大谷大学初代学長である清澤満之さんの言葉です。「あなたは本当の自分に出会ったことはありませんか。自分とは何であるか、力を尽して明らかにしていく必要が人間にはあるのではないですか」と、入学する前の私たちに呼びかけてくださっていました。私はこの言葉を見た時に、「えらい学校に入っただな」と思いました。

私はお寺の出身でしたので、大谷大学でお坊さんになる資格（得度）を取りました。また、住職になれる資格（大谷派教師）も取得しましたが、それは立ち迫ったものではな

く、今も、月参りに行ったり、法事に行ったりはしませんし、法話をすることもあまりないので、ペーパードライバーならぬ、ペーパーお坊さんなのかもしれません。

大谷大学では、真宗学、仏教学を学ぶのですが、学ぶにつれて、自分の価値観や殻が破られることが非常に多くありました。「あなたはあなたでいいんですよ」「頑張らなくてもいいんですよ」「阿弥陀さまにおまかせでいいんですよ」ということを教えていただきました。「ナンバー1でなくて、オンリー1でいいんですよ」と。小中高校と、公立の学校で倫理や道徳を学んできましたので、これは大変な驚きでした。勉強も一番、運動も一番、と言われ続けていたのに、「ナンバー1でなくて、オンリー1でいいんですよ」と言われたんです。「ナンバー1」でなくても輝ける世界があるということを教えていただきました。自分のものさしで、良いとか悪いとか、優れているとか劣っているとか、そういう中で人を見下している私がいる、そういう私でさえも阿弥陀さまは救ってくださるんですよ、ということを教えていただきました。『阿弥陀経』というお経の中に「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」という言葉があります。また、「ナンバー1にならなくてもいい、もともと特別なオンリー1」と、S M A Pの歌にもありますけれども、「あなたはあなたのまま。そのままの自分が尊いんですよ」と、仏さんの教えを学ぶにつれて、

わだかまりという氷が溶けていったと思います。

そうこうしているうちに四回生になりました。就職の準備に入ります。大学の時には、年に二、三回の試験監督や八百屋さんでアルバイトをしていました。東本願寺の参拝接待所でも毎週日曜日にアルバイトをしておりました。参拝接待所は、東本願寺に、亡くなった方のお納骨をされる時の受付をするところ、全国からいろんな方が訪ねてこられます。ある時、こんなおばあちゃんに遭遇しました。おばあちゃんは「東本願寺に納骨はできるんですか」と言われました。「はい、お納骨できますよ」。「お納骨するにはいくらですか」と言われました。「お納骨には十二万円かかります」。これは大変難しい表現ですけども、東本願寺に十二万円以上を相続講金として納めていただいた御礼としての納骨です。十二万円支払ってお納骨をするという意味ではないんですね。「十二万円以上でできます」と。「私にはそんなお金はないんですけれども、この東本願寺に何とかして自分の骨を入れてくれないか」とおっしゃいました。私はその時、大学生でしたので、もちろん十二万円というお金はありません。しかし、このおばあさんのために何とかしたいなと思っておりましたが、何ともできない自分がいるんです。『歎異抄』第四章に「慈悲に聖道・浄土のかわりめあり。聖道の慈悲というのは、ものをあわれみ、かなしみ、はぐくむ

なり。しかれども、おもうがごとくたすけとぐることに、きわめてありがたし。浄土の慈悲というは、念仏して、いそぎ仏になりて、大慈大悲心をもつて、おもうがごとく衆生を利益するをいうべきなり」という言葉があります。私たちは、その人に思いが至り、何とかしたいという気持ちがあると思います。その気持ちは決して無駄ではなく大切なことです。けれども、それには限界があるということを、どうか知っていただきたいと思います。

大谷大学では、多くの素晴らしい先生や、素晴らしい友だちとの出会いがありました。この人たちとまた会える場所はないか、ということ で考えたのが東本願寺でした。親鸞聖人の教えを聞かれ、本山に集われている方々と新たな出会いができる場所も東本願寺かなと思ひまして、就職することに決めました。

東本願寺には現在、教務所、宗務所、合わせて六〇〇人ぐらいの職員がいます。私は平成三年に入所して庶務部というところに配属されました。宗務所の受付や電話交換をする庶務部に一年半いまして、それから、国の国会にあたるどころ、宗派の最高議決機関に宗会があります。その事務局である宗会事務局に五年間いました。先ほど、東本願寺にお納骨をすることができると言いましたが、もう一つ、円山公園のちよつと上がったところに

あります東大谷にもお納骨できるところがありまして、そちらにも四年間いました。東大谷（大谷祖廟）は、円山公園の北にあるお寺で、一般寺院の原型と言われています。親鸞聖人のご遺骨や、全国の門徒の方々のご遺骨が納められている場所です。お寺の事務所ですが、当時の所長に、「大谷祖廟を自分のお寺と思ってください。自分のお寺だったら、こんな教化をしたい、綺麗にしたい、こんな接待をしたい、次から次へとやりたいことが出てくるでしょう。みなさん、どうか自分のお寺として関わってください」と言われました。自分のお寺だったら掃除もすると思いますし、掲示板のご案内一つにしても、いろいろやりたいことが出てくると思います。ですので、みなさんも、職場と学校は違いますけれども、就職したら職場を愛せるような人になって欲しいと思っています。私は、多くの人と出会い、毎日、仏さまのお話が聞ける東本願寺という職場が大好きです。どうか、みなさんも職場を愛せる人になっていただきたいと思います。大谷派の総務部長（人事担当）に「京都光華女子大学でお話をするんです」と言ったら、「東本願寺の素晴らしさを伝えて、みんなが就職を希望するように宣伝してきてください」と言われたので、もし、興味をもたれましたら就職課に行っていたきたいと思っています。

就職してから、約一〇年が経った、二〇〇二年一二月に、「宗門のあらゆる分野に女性

の登用を」ということで、私は、女性主計として四国教務所に行くことになりました。主計は字のごとく会計全般に関する仕事です。私が主計になるまで女性の主計はいませんでした。この主計という役職もそうですし、四国教務所は香川県高松市にあります。生まれ育ったところから未知の世界に行きますので「なぜ私が選ばれたのか」「なぜ私がこんな思いをしなければいけないのか」と、不安ばかりが募りました。みなさんは『観無量寿経』の『王舎城の悲劇』は習われましたか。韋提希夫人は、「私にどんな罪があつて私たちを苦しめているこの子アジャセを生んだのでしょうか。お釈迦様はどんな因縁でアジャセをそそのかしたダイバダッタという人といとこ同士なのですか」と、おっしゃっています。この『王舎城の悲劇』については、また、一郷先生や小澤先生にどういう物語か聞いていただければと思いますが、私も韋提希夫人と同じように「何で私だけが」と思っていました。この「何で私だけが」という言葉は、自分の都合が悪くなった時に出る言葉だと思えます。嫌なことが自分に降りかかった時にしか使えない言葉です。降りかかったことしか見えない自分があることを、まざまざと人生の中で感じさせていただきました。しかし、もう内示を受けていますので決意をしなければいけません。決意するには長い時間がかかったんですけれども、私は、親鸞聖人が京都から新潟に流罪になった時のことを思い

ました。親鸞聖人は、京都とは違う「いなかのひとびと」との出会いの中で、念仏の教えを確かめられていかれたと思います。一つのところに安住するのではなく、いろんな方々との出会いを求めていかれたに違いないと思います、私も高松に住んでおられる方々と共に一念仏をする身になりたいと思います、決意させていただきました。

四国教務所には五年間いました。四国は、みなさんご承知の四国遍路がありますので、四国の方々はおもてなしをするのが大変上手です。本当に、いろんなおもてなしを受けました。また、四国高松は「うどん県」と呼ばれています。私は、三日後に死ぬよと宣告されたら、一食はうどんを食べて死にたいなと思っているくらい、うどんが好きですので、とても嬉しかったです。

四国は、四県で、お寺が一〇〇カ寺しかないところですけれども、住職さん、坊守さん、若院さん、若坊守さん、共々に仲良くさせていただきましたし、門徒さんにもそれぞれお育ていただきました。内示の時は「何で私だけが」と思っていました、また次の転勤によって、「何で四国から出ないといけないのか」という自分に変わっていきました。

そして、二〇〇七年一〇月に、大垣教区の主計として転勤することになりました。みなさん、大垣というところはご存じですか。岐阜県の西部、天下分け目の関ヶ原の東にあり

ますが、四国教区とは違って、狭い地域の中に四二〇もお寺があるところです。

大垣教区の垂井というところのお寺（明泉寺）に、竹中彰元さんというお坊さんがおられました。この方は、日中戦争のうちに、「戦争は、最大の罪悪である」と言って、陸軍刑法に抵触するという事で逮捕され、禁固四ヶ月の執行猶予の刑に処せられた方です。国の刑法に抵触するという事で、真宗大谷派からも布教使の資格を剥奪されたんですが、その剥奪された資格をもう一度復権する大会が行われたのが、ちょうど私が行った二〇〇七年一〇月でした。その、復権顕彰大会では、多くの女性がスタッフとして働いておられました。その女性の方々を中心に私の歓迎会を開いてくださいました。その時からお付き合いが始まりました。

大垣教区では遠いお寺でも車で一時間ぐらいで着きますので、何カ寺も訪問させていただきました。各お寺では境内をとて綺麗にされていたり、行事を工夫されていたり、そして、お寺自慢のお宝を見せていただいたり、また反対に、相談されることもありました。「後継者がいないんやけど、どうしよう」「本堂を建て替えようと思ってるんやけど、どうやってお金を集めたらいいんやろう」いろんなことをお聞きました。それは、私が女性ということで話しやすかったのではないかと、今となつては思います。丸四年間、大

垣教務所で過ごしまして、また異動になりました。これは自分でも想像がつかないところへの転勤でした。北海道札幌市への転勤です。主計ではなく次長という役職で行って欲しいと言われました。次長からが管理職ですので、またまた「何で私なの？」と悩みました。一週間ほど悩みましたけれども、その役職を私が引き受けることで、後に続く女性職員への励みになったらいなと、お引き受けすることにいたしました。

みなさん、北海道には行ったことがありますか。とても広くて、同じ北海道内でも行き来するのが大変なところですよ。出張するにも一泊しないと行けないところもあります。ということは、門徒さんやお寺さんが札幌にある教務所に来られるのにも、時間や費用、労力がかかりますので、本当に頭が下がる思いでした。ですので、北海道は北海道の手でという意識が強く、教学研究所や研修センターなども教区で持つておられます。北海道には、親鸞聖人の教えを大事にする、中学、高校、大学が九つ、大学では、札幌大谷大学。短大では、函館大谷短期大学、札幌大谷短期大学、帯広大谷短期大学。高校では、函館大谷高校、札幌大谷高校、帯広大谷高校、北海道大谷室蘭高校、稚内大谷高校。中学校では、札幌大谷中学校があります。全国三八校中、九つが北海道にあるんです。

私は北海道で、初めて車にスノータイヤを着けましたが、スリップして、何回も轍わだちには

まっつて、みなさんに助けていただきました。昨日も札幌から来られた方が、「雪が二十センチも積もってるよ」と言っておられました。その雪は、ゴールデンウィークぐらいまで残っています。雪道での歩行、雪道への準備、例えば、車で出かける時には、雪を払ったり、雪かきをしないと通ることができないなど、車や電車に乗るにしても乗るまでに時間がかかるという、当たり前じゃない世界があったんだと思いました。

出合い

北海道に二年間いまして、その後、二〇一三年七月に、本山（宗務所）の教育部に異動になり、十一年ぶりに京都に帰ってまいりました。

そして、大谷派関係学校、幼年教化を担う大谷保育協会、刑務所にお話に行かれる教誨師さん、篤志面接員さん、保護司会の業務に携わってまいりました。ここでは本当に多くの、いわゆる「現場」で親鸞聖人の教えを伝えてくださっている方々に出会うことができました。


そして、教育部からちょうど四年経った今年の六月二十八日に青少年センター部長を

拝命いたしました。青年はだいたい十九歳から三十五歳まで（みなさんは青年層に入ると思いますが）、少年は小学生から高校生、幼年は保育園や幼稚園の方たちに、どうしたら親鸞聖人の教えが伝わるのか、全国の、青少幼年教化に志のある方と一緒に取り組んでおります。私は独身で子どもはいませんが、とても子どもが好きなので楽しく接しています。

六月に青少幼年センターに転任いたしましたので、ちょうど一ヶ月が経った頃に夏休みに入りました。夏休みには、全国からたくさんのお小生や幼稚園の子どもたちが東本願寺に遊びに来てくれます。その子どもたちに伝えることができるかを考えています。「自信教どうすれば分かりやすく、子どもたちに伝えることができるかを考えています」「自信教人信」（自らが信じ、その教えを伝えていく）、という言葉がありますが、私自身が、ちゃんと親鸞聖人や仏教の話を理解していないと伝えられないと思います。京都光華女子大学で授業をされている先生方も、どうしたらみなさんに理解してもらえるか、日々ご苦労されているんじゃないかと思いますが、「いただきます」という言葉一つにしても、「いのちをいただいている」ということを、どうすれば分かりやすく伝えられるかと苦慮します。

幼年期は、喜び、悲しみを、全身で表してくれます。青少年期は、与えられた命を精一杯生きたいと思い、その生き方を人生に求め、苦悩をされています。苦悩を共に分かち合


「こころの救急カード」



君はそのままでいいんじゃないか

友だち関係のこと・家のこと・学校のこと・・・
専門カウンセラーにメールで相談してみませんか？

東本願寺 青少年センター メール相談室
sagaesan@higashihonganji.or.jp



上記のアドレスから送信しますので、
受信拒否設定にご注意ください。

君に伝えたいことがある。

こころの傷は、だれでもない君であるあかしなんだ。

言い負かされることだって、

君の生きている足あとじゃないか。



よいこともわるいことも、

すべて君が生きているあかし。

なにひとつくしたり、消すことはない。

すべて君の大切なあゆみなんだ。

胸をはっていつもの道をいつものように歩いたらいい。



さく／サガエきん イラスト／100%ORANGE
「君はそのままでいいんじゃないか」 東本願寺出版部（一般資料）

「こころの救急カード」

い、共に課題として確かめ合うことが大切な
青少年教化かなと思っておりますので、
「あなたの悩みが私の悩みになる」、そして、
「決して一人じゃないですよ」ということを
伝えることができたいなと思います。本
日、『こころの救急カード』をお配りさせて
いただいておりますので、「ちよつと相談し
たいな」と思うことがありましたら、このカ
ードに載っておりますところへ相談してい
ただければと思います。

長々と私の自己紹介をさせていただきま
したが、東本願寺に入って二十七年間が過ぎま
した。その中で、男女差別、部落差別、ハン
セン病差別、外国人差別などの差別問題に取
り組まれている方、安保法案や集団自衛権行

使の改正で国と闘う方、真宗の教えを実践して保育活動をされている方、子どもたちの貧困を危惧して「こども食堂」や「お寺おやつクラブ」をされている方など、親鸞聖人の教えを、具体的に、ご自身の歩みとして取り入れられている方々に、本当にたくさん、お会いすることができました。みなさん、現代の問題を自分の課題として取り組まれています。今日は、その中でもどうしても紹介したい方がおられます。それは、「教誨師」という仕事に就かれています方です。

教誨師

罪を犯して刑務所や拘置所に入られている方の中には宗教を求めている方がおられます。その方たちの声を聞いて法話をされるのが教誨師の仕事です。もちろん、この教誨師には、キリスト教、神道、天理教、日蓮宗、曹洞宗、天台宗、浄土真宗など、各宗派の方々がいらっしやいます。

罪を犯した人を矯正する施設のことを刑務所や拘置所という名前で呼んでおりますが、日本全国には刑務所が六九ヶ所、そのうち、一般の刑務所が四七ヶ所、女性刑務所が九ヶ

所、少年刑務所が七ヶ所、医療刑務所が四ヶ所あります。交通刑務所も二ヶ所あります。死刑判決が出た方は刑務所ではなくて拘留所に入られます。古くから、犯罪者は寺に逃げ込んだり、寺が死刑囚を引き取って修行させたりという話は多く伝えられておりますし、法律や道德の世界では許されることのない犯罪者や、刑期を終えて行き場のない者を引き受けていたのもお寺だったと聞き及んでおります。明治初期には、浄土真宗の先輩僧侶が、監獄（今の刑務所）に出入りしたという記録も残っておりますし、教誨師を束ねる組織のなかった当時は、それぞれ有志の方々が自分の信念に従って教誨をされていたとも聞いております。先ほど言いました竹中彰元さんが逮捕された日中戦争の頃には、お坊さんも国家公務員として登用されたとの記録も残っております。そして、戦後の政教分離で、教誨師は国家公務員の職を解かれました。

特に浄土真宗の教誨師は、罪を犯した人の話を聞き、寄り添い、共に仏法を聞いていく友として存在する人であると思っております。

日本の国ではまだ死刑制度が残っております、この存廃につきましては、ここでは触れませんが、この死刑を執行する時に立ち会うのも教誨師さんなんです。人が人の手で殺されるところに立ち会われる教誨師さんは役職といえども驚異的だと思います。と

りわけ、私たちの東本願寺、西本願寺、浄土真宗の教誨師さんは、親鸞聖人の「善人な
もて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを、世の人つねにいわく、悪人なお往生す、
いかにいわんや善人をや」という言葉や、「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるま
いもすべし」という、あなたは縁がもよおしたら、どんなこともする人間なんですよ、私
も、今座っているあなたも、そういう存在なんですよという、「誰もが罪を犯す存在」だ
ということを確認しながら、刑務所に入っている方々と一緒に、教誨師さん自身も仏さま
の教えを受ける同じ仲間として仏道に歩まれていると私は思っています。浄土真宗の教誨
では、前世にこんな悪い行いをしたからとか、反省をしないから地獄に堕ちるとか、そう
いうことを言わないところも素敵だと思います。

ある教誨師さんから聞いたこんなエピソードがあります。医療刑務所というところがあ
りますが、ここである教誨師さんがお葬式を出されたそうです。家族の暴力に耐えかね
て、その家族を殺してしまった女性です。殺した後に自殺未遂をされましたが、助かって
服役されることになったんです。情状酌量があるにも関わらず実刑で、女性刑務所に入ら
れたんですけれども、ご病気になるれて医療刑務所に入られました。そして、治療、介護
のかいもなく七十年の生涯を終えられました。葬儀には娘さんご夫妻が来られたそうです

けれども、これ一つを考えた時に、どちらが悪いんでしょうか、ということなんですよね。ずっと暴力に耐えられてきて人を殺した人だけを責めるのか、ということを私は教えられました。ご縁が整ったら何でもする自分がいるということもまたこのエピソードから教えていただきました。

『歎異抄』の中にこういう文章があります。

往生のために千人殺せといわんに、すなわちころすべし。しかれども、一人にてもかないぬべき業縁なきによりて、害せざるなり。わがころのよくてころさぬにはあらず。また、害せじとおもうとも、百人千人をころすこともあるべし。

親鸞聖人の弟子の唯円さんは、「極楽に往生したければ、人を千人殺してきなさい」と親鸞聖人に言われたんです。唯円さんはびっくりして、「そんなこと、私にはできません」とおっしゃいました。「それでわかるだろう。何事も思い通りにできるのなら、往生のために千人殺せと言われれば殺すにちがいない。しかし、ご縁が整っていないから殺せないだけです」と親鸞聖人は言われました。人は生きている限り、多かれ少なかれ、罪を犯

していると思います。みなさん、法に触れる罪でなくても、ゴキブリとか、蚊とか、蝇とか、殺していませんか。ウソをついていませんか。人をおだてるために綺麗な言葉を使っていますか。何よりも、他のいのちをいただいて私自身が生きていることは罪ではないでしょうか。

私にとつての罪は、「仏さまのお話を聞いていますか」と仏さまから呼びかけられていることだと思います。「仏法に背いていませんか」と日々、教えていただいているのに、なかなか聞けないのが大きな罪であると思います。今日、京都光華女子大学の正門から入らせていただきましたが、掲示板に『よく聞け』という言葉が掲げてありました。まさに「仏法を聞いているか」と教えられました。罪を犯した人に接した時に、罪を犯した理由や、そこに至るまでの背景を知っていけば、みなさんもその人を許すことができるのではないかと思います。

和顔愛語

なぜ今日、私がこの宗教講座にお招きいただいたかを考えた時、女性で、部長という役

職に初めて就かせていただいたからだと思います。これから社会に出るみなさんに何か元氣の出るメッセージを、ということだと思います。

私は先ほど、歴史が好きだと言いましたが、関連するかどうかわかりませんが、『秘密のケンミンSHOW』という番組がとても好きです。地方の方言とか、食べ物に大変興味があって、高松や、大垣や、札幌に行った時は、地方の方たちとそういうお話をさせていただきました。初めて会う方でも地方特有の食べ物の話をする大変、話の花が咲きます。また、私は大変感受性が強くて、最近ドラマを見てよく涙をすることがあります。そして、自分では「キヨロちゃん」と言っているんですけど、人の行動に、とても興味がありキヨロキヨロしています。

人の行動のどんなことで感動するのか具体的に申しますと、みなさんも読んだことがあるかもしれませんが、ノートルダム清心女子学園理事長で、昨年十二月に亡くなられた渡辺和子さんの本『めんどうだからしよう』の中にこんな話があります。みなさんにも大学でテストがあると思うんですが、ノートルダム清心女子学園も試験がありました。九〇分の試験で、六〇分経ったら教室から出てもいい、ということになっているそうですが、途中退席しようと立ち上がった女子大生が、もう一度座り直すことになりました。先生は

何か忘れ物でもしたのかなと思われたそうですが、その女子大生は、消しゴムのカスが机にいっぱいあったので、それをティッシュで拾い集められるために帰ってきたそうです。私は、この人はえらいなと、何がそうさせたのかなと思いました。私でいえば東本願寺という職場、みなさんでいえば京都光華女子大学という大学、そこにゴミが落ちていた時に、どうしますか。ほって帰ってしまいますか。私はたぶんほっていたと思います。この本を読んでからは自分の職場にゴミがある時は拾うように心掛けております。この女子大生は、身を置くところに感謝の気持ちがあったのでしよう。何かちよつとしたことで人は変わるんじゃないかと思っています。

毎朝、私はだいたい八時に家を出るんですが、みなさん、『おはよう朝日』という番組は見ておられますか。『おはよう朝日』は最後に星占いがあるんです。親鸞聖人は、「占いやまじないに頼ってはいけません」とおっしゃっているんですが、テレビで流れますので、毎日出勤前に、その星占いを見てしまうんですね。私は牡牛座で、一二位だったら「あ、今日は一二位か」と思って落ちこみながら出勤するんですけど、帰る頃には忘れています。星占いは「周りを良く見て」「感情のコントロールをして」「無駄遣いしないように」とか、本当にいろんな忠告をしてくれますが、今となれば、自分におごらないよう

に、調子に乗らないようにと、教えてくれる言葉として受け止めております。そして、自分が一二位でない時には、違う人の星座が一二位になりますけれども、その人を思いやる人になればいいなとも最近は思います。

また、先般、こういう場面に遭遇いたしました。JRの在来線に乗っている時に、五人のおばさんが乗ってきたんです。四人対面の座席でしたので、どうやって座るのかなと思ったら、四人と一人に分かれてしまいました。その時に、四人ばかりで話をして、一人に思いを馳せられなかったとか、話しかけられなかったんです。何でこの一人に話しかけないんだろうと思いました。一人の人をさみしい思いをさせるのはよくないことですね。みなさんも、もしそういうことがあれば、その一人に思いを致す人になってほしいなと思います。

言葉にも、やわらかい言葉があります。よくトイレに「トイレをきれいに使ってください」と書いてあるんですけれども、それよりも「トイレをきれいに使っていたいて、ありがとうございます」と書いてあるほうがいいなと思います。私たちはやわらかな言葉に出会った時、とても、すがすがしい思いをするんじゃないかと思います。そして、心をスポンジのようにやわらかく持って、人に接していただけたらと思います。

今日は三つの学科の人が来られていると聞きました。こども教育学部の方には、これから未来ある子どもたちに、どうか悲しい思いをさせないようにしてください、ということだけを申し上げます。ということが悲しい思いかという、絶対に子どもたちに戦争を体験させてはいけないということです。私は今、青少年センターというところにいますので、また何かコラボできることがあればいいなと思っていますし、いろんなお知恵をお借りしたいとも思います。

健康科学部の方は、いのちを繋ぐ食に向き合っておられると思います。添加物や保存料にまみれている現代社会に、食の大切さ、手作りの良さを伝えていってほしいと思います。胃袋を掴む人は大変強いと聞いております。ぜひ、みなさんの胃袋を掴んでほしいと思います。

そして、ライフデザイン学科のみなさんは、マネージメント力を高めることが必要だと思っています。会議一つにしても、その会議に参加する人の予定はもちろんのこと、前後の予定を把握したり、どのような行程で行き来するか、万が一、列車が遅延した時には他にどんなルートがあるのか、すぐに言えるように事前に調べていただけたらと思います。そして、会議に講師を呼ばれた時、その先生がどういうものを嗜好されるか知っておくだけで

もずいぶん違うな思います。

最後に、私からみなさんへ、この言葉をプレゼントさせていただきます「和顔愛語^{わいげんあいご}」です。思いやりを持って接してください、という言葉です。ちなみに、宝塚歌劇団の舞台裏には「ブス二十五箇条」というものが貼つてあるそうです。インターネットを見ていたのだら、二十五箇条全部書いてありますが、特にこの三つをご紹介します。笑顔がない、お礼を言わない、美味しいと言わない」人は、心の持ちようで綺麗になれるということをお教えたいただいていると思います。人に寄り添って生きていくことはなかなか難しく、簡単なことではないと思います。二年間ないし四年間しかない学生生活、勉強も、生活も、大いに楽しんでいただきたいと思います。

自分の人生の選択が間違っていたらどうしようと思うこともあるかと思いますが、選択が間違っている、みなさん、まだまだ若いのです、やり直すことができます。私の友だちにも、子育てが終わってから大学に入り直した方もいらっしゃいます。どうか、視野を広げて、羽ばたいていただければと思います。

みなさんに最後に伝えたいのは、「たくさんの人に会ってほしい」ということです。自分の考え方と違う人と会っていただきたいなと思います。考え方の違う人と会った時は、

確かにしんどいですが、スポンジのような柔軟さと、思いやる、やわらかい言葉で接していただきたいと思います。そこを乗り切った時には、違いを認めあえる、新しい世界が広がっていると思います。

どうもご静聴ありがとうございました。

——二〇一七年一二月八日——